



## 丘の上の住宅地で、 地域と共に歩む理想の医療を

2013年8月取材

神奈川県横浜市  
きくち内科クリニック 院長  
菊地 泰介 先生

菊地泰介先生は神奈川県出身で、横浜市内の中学、高校を経て横浜市立大学へ進学。卒業後は同大学附属市民総合医療センターや県内の基幹病院に勤務するなど、地元神奈川県に縁の深い医師人生を歩んできました。2013年5月には横浜市にきくち内科クリニックを開設し、専門である糖尿病や内分泌疾患に加え、生活習慣病を含む内科全般を診る身近なホームドクターをめざしています。

### かかりつけ医の必要性に気づき開業

菊地先生が開業を決意したのは、さまざまな病気を併発した人でも幸せな人生が送れるように手助けをするには、大病院で専門の疾患だけを診るのではなく、地域に根差した、かかりつけ医として診療することが必要だと感じたからです。郊外の住宅地の一角という同クリニックの立地は、そうした理想の実現に最適の場所と言えます。かつて若い家族が一斉に入居した丘の上のニュータウンは、完成から数十年を経て町全体が高齢化を迎え、同クリニックの患者さんにも地元の高齢の方が多く見られます。「近所のレストランに行く顔見知りの患者さんばかりで、よく声を掛けられます」と菊地先生は笑います。開院からまだ日が浅いのですが、菊地先生の医療は早くも住民の信頼を得ているようです。



待合室には、大きなガラス窓から光がふんだんに降り注ぎ、明るい雰囲気の中で患者さんが心地良く診察を待てるようにしています。

### チームを組み、患者さんに即した医療を



子育てをしながら診療を続ける副院長の菊地香織先生。「きめ細かな診療を心掛けています」と語ります。

糖尿病など生活習慣病の治療では、患者さんの日常生活の把握が不可欠です。そこで菊地先生が重視するのは、医師だけではなく各職種が役割を分担し、患者さんの状態に即して行う“チーム”による医療。受付スタッフが患者さんの話を聞き概要を取りまとめ、看護師が血圧や既往歴などをチェック。食事に注意が必要と判断した患者さんには、管理栄養士が個別に栄養指導を行います。内服薬で血糖コントロールが困難な患者さんには、外来でインスリン導入も行っています。菊地先生のこうした考え方に共感し、一丸となって診療を行うのは、奥様で同じく糖尿病専門医である副院長の菊地香織先生です。「女性のみならず、男性にも『女性の医師だと話しやすい』と言ってくださる患者さんがいます。女性ならではの視点を大切にしながら、地域の方々のニーズにお応えしていきたいですね」と語ります。

### 患者さんと喜びを共にする

糖尿病の治療で難しいのは、自覚症状がほとんどない点です。治療を続けても改善した実感を患者さんが得にくく、通院を中断してしまう人が多くいます。治療中断回避のため、菊地先生は初診時に、治療の継続こそが合併症の予防につながると念入りに説明するそうです。そして、「血糖値などの数値が良くなったときには、患者さんと一緒になって喜びます。すると、患者さんのモチベーションが高まるようです」と菊地先生は話します。患者さんの気持ちを重んじる菊地先生の姿勢は、開業以前から一貫していたのでしょう。かつての勤務先で共に働いていたスタッフまで受診に来てくれるそうです。多くの患者さんに支持され、同クリニックが大きく発展し、地域医療にますます貢献していくのは間違いないはずです。



同クリニックには、幅広い年齢層の患者さんが来院します。会社勤めの患者さんが通院できるよう、週2回は診療時間を延長し、好評を得ているそうです。